

3 新斎苑の基本方針

3.1 現東山霊苑火葬場の課題

現東山霊苑火葬場は、施設の老朽化や小規模な施設のため、需要を満たせない状況となっており、隣接自治体などの火葬場を利用している市民も多くなっています。

現東山霊苑火葬場では、個室化された告别室がないため、故人との最後のお別れを炉前ホールで行っています。また、火葬炉に炉前冷却室が併設されていないため火葬に長時間を要しますが、待合場所は長時間を快適に過ごすための空間やサービスを提供する施設となっていません。多くの利用者は、火葬中は市内の式場などで時間を過ごし、収骨時間に再度訪れるといった利用方法が多く、不便な状況となっています。

駐車場については、火葬場の建物と比べ低い位置にあり、高齢者などのアクセスには、火葬場エントランスに車を着け、下車後駐車場へ駐車することになります。またスペースについても小さく、駐車位置の表記もないため十分な状況とは言えません。

建物については、車寄せの庇が小さく雨天時の利用などでは不便さを感じ、トイレなどについてもバリアフリーへの対応が十分な状況とは言えません。

また、敷地については、東山霊苑火葬場を稼働しながら新しい施設を建設するには現在の敷地内では十分な広さが確保できず、他の敷地に建設する必要があります。

このような現状を踏まえ、早期に需要に応じた最新の設備を整えた東山霊苑火葬場にかわる施設を建設する必要があります。



(内観イメージ)

3.2 新斎苑整備の基本方針

県内最大の人口を擁する本市にとって、近年の超高齢社会という背景に加え、地球規模での環境面への配慮が求められており、最新の設備による新斎苑建設は緊急かつ重要な課題となっています。

環境面への負荷の少ない最新の設備による新斎苑とすることと共に、国定公園内及び風致地区内に位置することを考慮し、当地の樹木の活用など、自然景観への最大限の配慮を行いつつ、量的な需要に応える施設とします。

また、計画地は、歴史のある鉢伏街道に接し、春日山、高円山などの眺望に優れた緑豊かな場所にあります。

このような背景を踏まえ、新斎苑整備の基本方針を以下のように設定しました。

新斎苑整備の基本方針

『奈良の都の葬送の場としてふさわしい自然に包まれた新斎苑を創造』

春日山、高円山などを眺望することができる森の中に、周辺環境と一体化した美術館のような建築物のイメージの新斎苑とします。亡くなられた方の尊厳を大切にしたい人生の終焉にふさわしい場にするとともに、ご遺族が心穏やかにお送りできる癒しの場となる施設を目指します。具体的な方針は以下のとおりとします。

●奈良の都の葬送空間を創造する新斎苑

奈良盆地の外縁を形成する丘に現代の奈良にふさわしい葬送の空間を創ります。春日山、高円山などへの眺望や木々の緑を活かし、奈良らしいデザインを取り入れた空間を創ります。

●遺族や会葬者の心情に配慮した人にやさしい新斎苑

それぞれのスタイルで故人を偲び見送る時間を過ごすことのできる利用しやすい新斎苑とします。

●自然と調和した新斎苑

現状の自然を活用し、自然の中にとけ込み、自然を育む新斎苑とします。

●環境へ配慮した新斎苑

最新設備による騒音、排出ガスなど環境への負荷を低減した新斎苑とします。

●長く安定した運営ができる合理的な新斎苑

長期にわたり利用できる施設として耐久性があり、安全に継続的な運営が可能な新斎苑とします。